

標 題 : Blood pressure lowering effect of olive is mediated  
through calcium channel blockade

オリーブの血圧低下作用はカルシウムチャネル遮断を經由して介在される

---

著 者 : A. H. Gilani et al. (パキスタン アガハン大学 医学部 生物学・生物医学科)

---

掲 載 誌 : Int. J. Food Sci. Nutr. 56(8): 613-620 (2005)

---

要 旨 :

オリーブ(*Olea europaea*)は、伝統医学で高血圧の治療薬として使用される。

*O. europaea*果実のメタノール水溶液粗抽出物(OeF.Cr)を麻酔をかけたラットで研究し、分離した心臓血管系標本を使用してその可能なメカニズムを解明した。

OeF.Crの静脈内投与は、麻酔をかけた正常血圧ラットで動脈血圧の投与量依存性の(30-100mg/kg)低下を生じた。

この作用はアトロピン投与した動物で変化せずに残った。

OeF.Cr(0.1-3.0mg/ml)はin vitro研究で、自然に鼓動するモルモットの心房を抑制した。

さらにそれは0.1-3.0mg/mlの用量範囲で、ウサギ大動脈標本のK<sup>+</sup>および/またはフェニレフリン誘発性の収縮を弛緩させたので、カルシウムチャネル遮断(CCB)が示唆される。

OeF.Crによる血管標本の前処理がベラパミルと同様に用量依存性のCa<sup>2+</sup>用量反応曲線の右方向への移動を生じたときに、カルシウムチャネル遮断作用が確認された。

オリーブの血圧低下作用はカルシウムチャネル遮断によって介在されるとこれらの結果は示唆しており、高血圧におけるその使用を正当化する。

キーワード : オリーブ、抗高血圧剤、カルシウム拮抗薬、ラット

---